

医療薬学2（内分泌・生殖器・感覚器・皮膚疾患の病態と治療）

責任者・コーディネーター		病態薬理学講座薬剤治療学分野 三部 篤 教授	
担当講座・学科(分野)		病態薬理学講座薬剤治療学分野	
対象学年	3	区分・時間数 (1コマ2時間換算)	講義 40 時間 (20 コマ)
期 間	前期		
単 位 数	2 単位		

・学修方針（講義概要等）

私達は身体を守り、健康を維持し、成長し、子孫を繁栄させるために必要な機構・機能を体内に備えている。そして、多くの病気はホルモンなどの調節機構の不調や、身体の機能が環境と食生活の変化などに対応できないで発症する。本講義では、代表的な内分泌・生殖器・感覚器・皮膚疾患の病態と治療に対する薬物治療戦略、使用薬剤に関する代表的な副作用と適用上の注意点、薬物相互作用などについて解説する。また、代表的な処方为例にとり、薬物治療の意味を総合的に考える能力を養う。

・教育成果（アウトカム）

ホルモンの生理作用、調節機構、関連疾患治療薬に関する知識などを習得し、代表的な内分泌・生殖器・感覚器・皮膚疾患の病態、治療薬剤の特徴、使用上の問題点を習得することにより、これら疾患の治療戦略を理解し、説明できるようになる。
(ディプロマ・ポリシー：2,4)

・到達目標（SBO）

1. 性ホルモン関連薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる(672)。
2. Basedow（バセドウ）病について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる(673)。
3. 甲状腺炎（慢性（橋本病）、亜急性）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる(674)。
4. 尿崩症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる(675) (☆)。
5. 先端巨大症、高プロラクチン血症、下垂体機能低下症、ADH 不適合分泌症候群(SIADH)、副甲状腺機能亢進症・低下症、Cushing（クッシング）症候群、アルドステロン症、褐色細胞腫、副腎不全（急性、慢性）、子宮内膜症、アジソン病について説明できる(676)。
6. 代謝系・内分泌系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる(677)。
7. 緑内障について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる(678)。
8. 白内障について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる(679)。
9. 加齢性黄斑変性について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる(680)。
10. 結膜炎（重複）、網膜症、ぶどう膜炎、網膜色素変性症について概説できる(681)。
11. めまい（動揺病、Meniere（メニエール）病等）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる(682)。

12. アレルギー性鼻炎（重複）、花粉症（重複）、副鼻腔炎（重複）、中耳炎（重複）、口内炎・咽頭炎・扁桃腺炎（重複）、喉頭蓋炎について概説できる(683)。
13. アトピー性皮膚炎について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる(684)。
14. 皮膚真菌症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる(685)。
15. 褥瘡について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる(686)。
16. 蕁麻疹（重複）、薬疹（重複）、水疱症（重複）、乾癬（重複）、接触性皮膚炎（重複）、光線過敏症（重複）について概説できる(687)。
17. 感覚器・皮膚の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる(688)。
18. 前立腺肥大症、子宮内膜症、子宮筋腫について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる(651)（☆）。
19. 妊娠・分娩・避妊に関連して用いられる薬物について、薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる(652)。
20. 異常妊娠、異常分娩、不妊症について説明できる(653)。
21. 循環系・泌尿器系・生殖器系疾患の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる(654)。

・ 講義日程

（矢）西 103 1-C 講義室

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
4/2	水	2	薬剤治療学分野	三部 篤 教授 手塚 優 助教	下垂体ホルモンと関連疾患 1（成長ホルモン、プロラクチン） 1. 先端巨大症、高プロラクチン血症の病態およびその治療薬について説明できる。 【双方向授業】【ICT(Google フォーム)】 事前学修：当日授業を行う範囲に関して、病気がみえる vol. 3 および薬がみえる vol 2 の該当範囲を確認し、要点をつかんでおくこと。 事後学修：講義資料を利用し、学修した範囲を復習し、重要事項を定着させること。
4/7	月	2	薬剤治療学分野	三部 篤 教授 手塚 優 助教	下垂体ホルモンと関連疾患 2（抗利尿ホルモン、オキシトシン） 1. 尿崩症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 【双方向授業】【ICT(Google フォーム)】 事前学修：当日授業を行う範囲に関して、病気がみえる vol. 3、vol. 8 および薬がみえる vol 2 の該当範囲を確認し、要点をつかんでおくこと。

					事後学修：講義資料を利用し、学修した範囲を復習し、重要事項を定着させること。
4/14	月	2	薬剤治療学分野	三部 手塚 篤 教授 優 助教	甲状腺ホルモンと関連疾患 1. バセドウ病および甲状腺炎(慢性(橋本病)、亜急性)などの甲状腺関連疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 【双方向授業】【ICT(Google フォーム)】 事前学修：当日授業を行う範囲に関して、病気がみえる vol. 3 および薬がみえる vol 2 の該当範囲を確認し、要点をつかんでおくこと。 事後学修：講義資料を利用し、学修した範囲を復習し、重要事項を定着させること。
4/18	金	3	薬剤治療学分野	三部 手塚 篤 教授 優 助教	副甲状腺ホルモンと関連疾患 1. カルシウム代謝の異常を伴う疾患(副甲状腺機能亢進(低下)症)について、治療薬の薬理および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 【双方向授業】【ICT(Google フォーム)】 事前学修：当日授業を行う範囲に関して、病気がみえる vol. 3 および薬がみえる vol 2 の該当範囲を確認し、要点をつかんでおくこと。 事後学修：講義資料を利用し、学修した範囲を復習し、重要事項を定着させること。
4/21	月	2	薬剤治療学分野	三部 手塚 篤 教授 優 助教	副腎髄質ホルモン+副腎皮質ステロイドホルモンと関連疾患 1. 副甲状腺機能亢進症・低下症、Cushing(クッシング)症候群、アルドステロン症、褐色細胞腫、副腎不全(急性、慢性)について説明できる。 【双方向授業】【ICT(Google フォーム)】 事前学修：当日授業を行う範囲に関して、病気がみえる vol. 3 および薬がみえる vol 2 の該当範囲を確認し、要点をつかんでおくこと。 事後学修：講義資料を利用し、学修した範囲を復習し、重要事項を定着させること。

4/23	水	2	薬剤治療学分野	三部 手塚 篤 教授 優 助教	副腎髄質ホルモン＋副腎皮質ステロイドホルモンと関連疾患 2 1. ステロイド性医薬品の薬理および臨床適用を説明できる。 【双方向授業】【ICT(Google フォーム)】 事前学修：当日授業を行う範囲に関して、病気がみえる vol. 3 および薬がみえる vol 2 の該当範囲を確認し、要点をつかんでおくこと。 事後学修：講義資料を利用し、学修した範囲を復習し、重要事項を定着させること。
4/30	水	2	薬剤治療学分野	三部 手塚 篤 教授 優 助教	性ホルモンと関連疾患 1（男性の性ホルモン調節および前立腺肥大症など） 1. 男性の性ホルモン調節および関連する治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。 【双方向授業】【ICT(Google フォーム)】 事前学修：当日授業を行う範囲に関して、病気がみえる vol. 3、vol 8 および薬がみえる vol 1、vol 2 の該当範囲を確認し、要点をつかんでおくこと。 事後学修：講義資料を利用し、学修した範囲を復習し、重要事項を定着させること。
5/7	水	2	薬剤治療学分野	三部 手塚 篤 教授 優 助教	性ホルモンと関連疾患 2（女性の性ホルモン調節および関連疾患など） 1. 女性の性ホルモン調節および関連する疾患治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。 【双方向授業】【ICT(Google フォーム)】 事前学修：当日授業を行う範囲に関して、病気がみえる vol 9、vol 10 および薬がみえる vol 2 の該当範囲を確認し、要点をつかんでおくこと。 事後学修：講義資料を利用し、学修した範囲を復習し、重要事項を定着させること。
5/14	水	2	薬剤治療学分野	三部 手塚 篤 教授 優 助教	性ホルモンと関連疾患 3 1. 女性の性ホルモン調節および関連する疾患治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。 【双方向授業】【ICT(Google フォーム)】

					事前学修：当日授業を行う範囲に関して、病気がみえる vol. 9、vol 10 および薬がみえる vol 2、vol 3 の該当範囲を確認し、要点をつかんでおくこと。 事後学修：講義資料を利用し、学修した範囲を復習し、重要事項を定着させること。
5/19	月	2	薬剤治療学分野	三部 篤 教授 手塚 優 助教	演習 1 1. 医療薬学 2 の前半部分の内容を説明できる。 【双方向授業】【ICT(Google フォーム)】 事前学修：事前に配布した演習問題に関して、授業資料の該当範囲を確認し、要点をつかんでおくこと。 事後学修：演習問題を利用し、学修した範囲を復習し、重要事項を定着させること。
5/21	水	2	薬剤治療学分野	三部 篤 教授 手塚 優 助教	感覚器疾患 1（緑内障治療薬） 1. 緑内障について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 【双方向授業】【ICT(Google フォーム)】 事前学修：当日授業を行う範囲に関して、病気がみえる vol. 12 および薬がみえる vol. 2 の該当範囲を確認し、要点をつかんでおくこと。 事後学修：講義資料を利用し、学修した範囲を復習し、重要事項を定着させること。
5/28	水	2	薬剤治療学分野	三部 篤 教授 手塚 優 助教	感覚器疾患 2（緑内障治療薬-2） 1. 緑内障について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 【双方向授業】【ICT(Google フォーム)】 事前学修：当日授業を行う範囲に関して、病気がみえる vol. 12 および薬がみえる vol. 2 の該当範囲を確認し、要点をつかんでおくこと。 事後学修：講義資料を利用し、学修した範囲を復習し、重要事項を定着させること。
6/2	月	2	薬剤治療学分野	三部 篤 教授 手塚 優 助教	感覚器疾患 3（白内障＋黄斑変性治療薬）

					1. 白内障、加齢性黄斑変性およびその他の眼科疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 【双方向授業】【ICT(Google フォーム)】 事前学修：当日授業を行う範囲に関して、病気がみえる vol. 12 および薬がみえる vol. 2 の該当範囲を確認し、要点をつかんでおくこと。 事後学修：講義資料を利用し、学修した範囲を復習し、重要事項を定着させること。
6/4	水	2	薬剤治療学分野	三部 篤 教授 手塚 優 助教	感覚器疾患 4 (耳鼻咽喉科疾患-1) 1. めまい、動揺病について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 【双方向授業】【ICT(Google フォーム)】 事前学修：当日授業を行う範囲に関して、病気がみえる vol. 13 および薬がみえる vol. 2 の該当範囲を確認し、要点をつかんでおくこと。 事後学修：講義資料を利用し、学修した範囲を復習し、重要事項を定着させること。
6/9	月	2	薬剤治療学分野	三部 篤 教授 手塚 優 助教	感覚器疾患 5 (耳鼻咽喉科疾患-2) 1. 難聴、中耳炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 【双方向授業】【ICT(Google フォーム)】 事前学修：当日授業を行う範囲に関して、病気がみえる vol. 13 および薬がみえる vol. 2、vol. 3 の該当範囲を確認し、要点をつかんでおくこと。 事後学修：講義資料を利用し、学修した範囲を復習し、重要事項を定着させること。
6/11	水	2	薬剤治療学分野	三部 篤 教授 手塚 優 助教	感覚器疾患 6 (耳鼻咽喉科疾患-3) 1. アレルギー性鼻炎、花粉症および副鼻腔炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態

					(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 【双方向授業】【ICT(Google フォーム)】 事前学修：当日授業を行う範囲に関して、病気がみえる vol. 6、vol. 13 および薬がみえる vol. 2、vol. 3 の該当範囲を確認し、要点をつかんでおくこと。 事後学修：講義資料を利用し、学修した範囲を復習し、重要事項を定着させること。
6/16	月	2	薬剤治療学分野	三部 篤 教授 手塚 優 助教	感覚器疾患 7 (耳鼻咽喉科疾患-4) 1. アレルギー性鼻炎、花粉症および副鼻腔炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 【双方向授業】【ICT(Google フォーム)】 事前学修：当日授業を行う範囲に関して、病気がみえる vol. 6、vol. 13 および薬がみえる vol. 2、vol. 3 の該当範囲を確認し、要点をつかんでおくこと。 事後学修：講義資料を利用し、学修した範囲を復習し、重要事項を定着させること。
6/18	水	2	薬剤治療学分野	三部 篤 教授 手塚 優 助教	皮膚疾患 1 1. アトピー性皮膚炎および蕁麻疹について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 【双方向授業】【ICT(Google フォーム)】 事前学修：当日授業を行う範囲に関して、病気がみえる vol. 6、vol. 14 および薬がみえる vol. 2 の該当範囲を確認し、要点をつかんでおくこと。 事後学修：講義資料を利用し、学修した範囲を復習し、重要事項を定着させること。
6/23	月	2	薬剤治療学分野	三部 篤 教授 手塚 優 助教	皮膚疾患 2 皮膚真菌症、褥瘡および薬疹 1. 皮膚真菌症、褥瘡および薬疹について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 【双方向授業】【ICT(Google フォーム)】

					事前学修：当日授業を行う範囲に関して、病気がみえる vol. 6、vol. 14 および薬がみえる vol. 2、vol. 3 の該当範囲を確認し、要点をつかんでおくこと。 事後学修：講義資料を利用し、学修した範囲を復習し、重要事項を定着させること。
6/25	水	2	薬剤治療学分野	三部 篤 教授 手塚 優 助教	演習 2 1. 医療薬学 2 の後半部分の内容を説明できる。 【双方向授業】【ICT(Google フォーム)】 事前学修：事前に配布した演習問題に関して、授業資料の該当範囲を確認し、要点をつかんでおくこと。 事後学修：演習問題を利用し、学修した範囲を復習し、重要事項を定着させること。

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌 第 5 版	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2019
教	病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症 第 2 版	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2018
教	病気がみえる vol.8 腎・泌尿器 第 4 版	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2024
教	病気がみえる vol.9 婦人科・乳腺外科 第 4 版	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2018
教	病気がみえる vol.10 産科 第 4 版	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2018
教	病気がみえる vol.12 眼科 第 1 版	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2019
教	病気がみえる vol.13 耳鼻咽喉科 第 1 版	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2020
教	病気がみえる vol.14 皮膚科 第 1 版	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2020
教	神経系の疾患と薬；循環器系の疾患と薬；腎・泌尿器系の	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2021

	疾患と薬；漢方薬 薬がみえる vol. 1 第2版			
教	代謝系の疾患と薬；内分泌系の疾患と薬；産婦人科系の疾患と薬；血液系の疾患と薬；免疫・炎症・アレルギー疾患と薬；呼吸器系の疾患と薬；眼・耳・皮膚の疾患と薬 薬がみえる vol. 2 第2版	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2023
教	消化器系の疾患と薬；感染症と薬；悪性腫瘍と薬 薬がみえる vol. 3 第2版	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2023
教	薬物治療学 第2版	小佐野 博史ら 編集	朝倉書店	2020
教	治療薬マニュアル 2025	北原 光夫、上野 文昭、越前 宏俊 編集	医学書院	2025

・成績評価方法

定期試験の結果（論述式 100%）で評価する。

・特記事項・その他

予習としては、教科書の授業内容の項目を読んでおくこと。
復習としては、授業での配付資料を用いてまとめること。さらに、演習で行った問題をよく調べ、理解すること。授業に対する事前・事後学修（予習・復習）の時間には、各コマに対して、それぞれ45分を要する。更に、定期試験前には、20時間程度の総復習時間を確保する必要がある。授業出欠カードには自由記載欄があり、教員への質問や要望を伝えることができる。質問の解答は、質問を受けた次の週の講義終了後に対応する。定期試験後に、フィードバックとして補講等を実施する。

当該科目に関連する実務経験の有無 無

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	コンピューター	1	講義スライドの映写